12年に一度のご開帳

大磯の寅薬師を巡りませんか。

私たちの住む相模の地区では、「丑観音寅薬師」と言われるように、寅年には薬師如来を巡る慣習があります。

寅年の今年、五百年以上続く「薬師如来巡り」をご紹介いたします。

▼ご開帳

3月27日(土)～4月4日(日)

▼ご開帳霊場

相模薬師如来めぐりは大磯、二宮、平塚、秦野、伊勢原にわたり第21番まで霊場があります。

第5番国府新宿　薬師堂
第6番国府本郷　真勝寺
第7番寺坂　王福寺
第8番南下町　東光院
第9番神明町　楊谷寺

▼王福寺木造薬師如来坐像

王福寺の本尊である木像薬師如来坐像は、平安時代前期の作風を遺す東国を代表する古仏で、昭和2年4月に国指定重要文化財に指定されています。

▼楊谷寺木造薬師如来立像

楊谷寺の本尊である木像薬師如来立像は、昭和51年7月に町指定有形文化財に指定されており、平素は拝することができない秘仏です。

4月4日(日)に、大磯ガイドボランティア協会と連携して、「寅薬師霊場めぐり」を実施します。町内にある寅薬師をガイドの説明を聞きながら巡るのもおすすめです。

(関連記事は23ページ)

◎問い合わせ先

・観光推進室　☎内線248
・生涯学習課　☎内線323

旧吉田茂邸再建に向けて　連載シリーズ6

大磯の賢人　吉田茂

パリ講和会議

大正3年、独を中心とする同盟国と英・米・仏等の連合国との間で勃発した第一次世界大戦は、大正7年、連合国側の勝利に終わります。日英同盟に基づき参戦した日本は、大正8年、戦後処理や世界秩序の決定のため、パリで開催された講和会議に戦勝国の一員として参加しました。

▲1919年(大正8年)6月、パリ講和会議全権団記念写真。ホテル・プリストルにて。2列目左から4人目の前二人に挟まれて顔が見えるのが吉田茂。(写真／外務省外交史料館)

済南領事に就任して間もなく、吉田は首席全権・西園寺公望と共に岳父の牧野伸顕が講和会議に出席することを耳にします。この時「たとえ外交官の末端とはいいながら、これに列席し得るのは、千載一遇の好機」(『回想十年』第四巻)と考え、自ら参加を牧野に志願しました。吉田の生涯初となる猟官運動は功を奏し、牧野の秘書官として随行することに成功します。

当時、パリにおける秘書官・吉田の仕事は、汽車汽船の切符やホテルの手配などの雑務でした。以前寺内正毅に「総理大臣ならつとまるかもしれませんが、秘書官はとてもつとまりません」と総理大臣秘書官の職を辞退したとおり、事務的な仕事に向かず、全く気の利かない吉田に対し、普段温厚であった牧野も、帰りの航路では殆ど吉田に口をきいてくれなかったといいます。

しかし、パリ講和会議で学んだ数々の教訓は、後の吉田の外交、とりわけ三十年後の第二次世界大戦後、米国との講和という日本独立への重大な局面において、大いに発揮されます。

講和会議の結果、ヴェルサイユ条約が締結され、国際連盟が発足しました。会議では米英仏が中心的役割を果たし、日本は威光を示すことができませんでしたが、吉田は当時日本が世界をリードする「五大国」に属し、国際連盟では理事国として重要な地位を占めたことに対し、「日本開国以来、明治の大先輩の営々たる努力が、ここに立派に実を結んだというべきであろう」(『回想十年』第四巻)と評価しています。

講和会議には吉田以外にも近衛文麿、松岡洋右、芦田均など、のちの政治の中核を担う人物が随員として出席していました。また、米国側の出席者には、奇しくも第二次世界大戦後のサンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約において交渉役を務めたジョン・フォスター・ダレスがいました。およそ三十年の時を経て、互いに国家の代表として日米の講和に主導的役割を果たした二人は、パリの地で既に顔を合わせていたのかもしれません。

◎問い合わせ　郷土資料館学芸員　曽根田　☎(61)4700